

高山別院報恩講—未熟・未完成を感じる

「結 讃」

去年の別院報恩講が終わって、掌儀役から私のスマホに動画が送られてきた。令和4年度別院報恩講の満日中の結讃の動画である。後日、本人に会った時「送信した意味、分かります?」とのこと。「は、一、来年は俺に結讃を当ててくれる気なんやな。俺に出来るやろか…」不安もあったが、一生に一度、有るか無いかの晴れ舞台(!?)である。

それからというものの名誉欲に駆られ、車中の移動、葬儀礼参りで門徒一同を待つ間の庫裏渡り廊下。度々、結讃の練習をしてみる。声量ではMちゃんに勝る者は無い。K君の美しい声、Jちゃんの正確さ。どれも真似出来ない自分には、何かあるのか? 練習するうちに出了た答えは、中音域のトルクと声の伸び。よし、俺らしさを出す結讃を…別院に会議に来た際、御堂番が帰った頃を見計らい、職員と列座の目を盗むように本堂に入り、いけないことと思いながら、祖師前首座に着座して練習の成果を試してみる。自坊では出来ても、本番の場でやってみないと…練習するうちに、ビブラートがかけられるようになった。喉の開き方を習得したのである。演歌歌手か!? 心の声も幻聴のように聞こえてくる。

そんな試行錯誤が続く中、今年の別院報恩講の時期が近づいてきたある日、掌儀から「喉の調子を整えて下さい」のライン。「彼は本気や…」。11/1の晨朝、5:50分に別院にきて、無人の本堂、こっそり祖師前首座でリハをする。「伸びる、これならいける！」

3日の晨朝まで繰り返しコン練をして、いよいよ満日中。頑張れとエールを送ってくれる人、和讃本に結讃の節譜を入れて配卓すると言ってくれる人。なにより結讃を当ててくれ、直前にユンケル(高価な小瓶タイプ)をくれた掌儀の期待に答えなければ。満を持し出仕。物凄い緊張感に襲われながらの配卓。鍵役の和讃、3句目で和讃本を開く。約束の節譜とともに、若手のエール!?まで挟まれている。「公信さん、落ち着いて…」、そんな幻聴まで聞こえてくる。時は来た。

「によおーらーいー」…伸、伸びない!? (汗)そんなはずはない。この三日、法事は勿論、月参りもいれず、家ではお喋りな私が家族との会話も控え、夜にマスクまでして寝てためらってきたのである。何故、かすれる!?「落ち着け、今まだ始まったばかりや、日曜学校で小学生に結讃を披露し、うるさい!と耳を塞がれたあの声を取り戻せ!」。そう言い聞かせながらも、声は伸びない。分かりにくいとは思いますが、バイクで例えるなら、キャブレータ仕様の旧車が、真冬にエンジンをかけて、暖気不十分のまま発進したあの感じなのである。もうあとは、記憶がない。



令和5年(俺の!?別院の!?)報恩講は完全なる不完全燃焼

で終わってしまった。後輩3人が、私の結讃をスマホで撮り送ってくれた。確認すると、緊張と焦りのためか「恩徳は」の濁が「おんど」で止まり、「く」と「は」が発音されていないのである。この声明は南本願寺か!? 十五濁か!? 当宗派には有り得ない結讃になってしまった。「良かったですよ」と気遣いねぎらってくれる掌儀と列座の優しさに涙の出る思いで、トボトボと一人別院から帰りながら、周りの優しさに触れる一方、「未熟・未完成」の自分を悉く知らされた別院報恩講であった。

「未熟・未完成の凡夫」

ロシアとウクライナの戦争が続く中、今度はガザで戦争が始まった。それぞれの国に賢く立派な政治家や有識者がたくさんいるだろうに、自分の正義(欲)を通すためには、結局暴力でしか方法を見いだせない人間の「未熟・未完成さ」が露呈された。それは国レベルの話だけでなく、場合によっては地域、職場、学校、果ては家庭にまで巣を食う私の問題ではないだろうか?

大谷大学の一楽学長が、今年の飛騨学場でお話しされた時、「法然さんは時によって一日6万回念仏を称えられたらしいですね。それは、愚痴な法然房としての機の深信の念仏だったのです」と言われた。未熟・未完成の私には、いや未熟・未完成の私だからこそ「ただ念仏申すのみ」である。

センター企画会議 副座長

高山2組 了心寺 白尾 公信



★高山別院報恩講勤修—11月1日～3日 99人が帰敬式を受式されました★

3日間晴天の中、高山別院報恩講が勤修されました。今年度は、1日には真宗公開講座で説法漫才、2日に「多宝塔讃嘆法要」「御伝鈔の夕べ」、3日には帰敬式の執行と御満座法要と、お斎はお休みとなりましたが、コロナ前の報恩講に戻ってまいりました。

なお今年度は、二昼夜・七座のお勤めがありました。6名の女性僧侶に内陣へのご出仕をいただきました。



多宝塔開扉式
別院での宗祖御遠忌の折、多宝塔から宗祖の真骨が発見され、このたび讃嘆法要が厳修されました。

御伝鈔の夕べ(下巻拝読)
説法漫才えしりょう

寺族交流会座談会「同朋唱和の回復に向けて」③ 座談Ⅱ 育成部会

(式次第や正信偈の説明) 法事の時、法要次第の意味について説明します。伽陀は阿弥陀さまをお迎えする初めのお歌で、「正信偈」は浄土真宗の御開山親鸞聖人がつくられた、念仏を伝えてくださった感謝のお勤めだと。大谷派の婦人会から出ている本や、戸次先生の「正信偈」の黄色い本など配って説明します。「正信偈」は3行目から4行目にかけて音が下がります。「上」は音が上がって、「下」は音が下がります。文字の横の棒が上向いたり下向いたり、長かったり短かったりで、変化して難しいかもしれませんが、遅れても大丈夫なのでご一緒にお勤めしましょうと伝えます。知らない方が多いので、説明するようにしています。

(お勤め会参加名簿) ラジオ体操の後のお勤めについてですが、自分で紙に名前を書いて丸を付けていくように本堂の横に置いてあります。子どもたちは、自分で名前を書いて丸を付けていくのが毎日の楽しみのようなのでした。私が紙を置くのを忘れてしまっていたことがあり、紙が無いからといって子どもたちが帰ってしまっていて、その後からは来なくなってしまった。それは失敗だったと思います。

(子どもが大人を教化する) うちの町内では、ラジオ体操をお寺ではなく公民館ですようになり、子どもがお寺で夏休みのお勤めをする機会が無くなってしまいました。お寺で生まれ育った者より、嫁に来た坊守が危機感を感じています。それで夏休み中に、お勤め会をしてその後自習して少し遊んで帰る場を5日間設けました。

私たちのイメージでは、大人が子どもに「正信偈」を教えるということになりますが、子どもが逆に家に帰ってお内仏で「帰命無量寿如来」って言いだしたら、大人の方がドキッとすると感じます。坊守は、子どもが大人を教化するのだと言っています。

(出しやすい声での調声) 体で覚える分、住職の読み癖がいっぱい付いてしまうということがあります。「違

うよ」と言ってもなかなか直らないこともあります。僕らは重々気を付けてお勤めをしなければならない。子どもや女性がおられる時は、調声というだけに、声の高さとか十分注意する必要があります。自分が出しやすい声ではなくて、皆が出しやすい声を調声人は出すのです。子どもたちと触れ合うと勉強になります。

(調声人と音程が違って) でも、必ずしも同じ高さでなくても良いと思う。私たちみたいに年を取ってくると自分の高さで、調声人の高さと違ってもしようがない。無理なこともあるのでとも感じています。

(お勤めして当たり前という感覚) コロナで3年ぶりに子ども会をやりましたが、5分の1くらいになってしまいました。最初から仕切り直しです。ラジオ体操の話ですが、僕が中学校の頃までは境内でやっていましたが、いつの間にか公民館、そして公園に移りました。町内と相談して、お寺の境内でやれるよう相談できないかと考えます。ただ気になるのは、なぜ境内でやらなくなったのかです。

枕勤めの時、子ども会に来ている子が「正信偈」をいっしょにしました。三世代全員が「正信偈」をお勤めできることを、JAの職員がびっくりしていましたが、当たり前だったのです。まだ当たり前という感覚が残っているので、こういう感覚は無くしたくないと思います。

(ご坊出張子ども会) 朝日高根組で、「ご坊出張子ども会」を実施いただき驚いたのが、途切れてしまったのかなと思っていましたが、割と皆お家で「正信偈」をお勤めしているような話を聞いて少し安心しました。親世代が寺離れとかお寺に来ていないような気がするのですが、おじいちゃん、おばあちゃんから習ったとか一緒にやっているのかなと思います。子どもがいなくて、単独ではなかなか難しいのですが、是非、子ども会は続けたいと思いました。子どもの時に覚えたことは忘れない、自転車に乗れるような感じで。

(合掌をする子ども) 青少幼年部会幹事の三島大遵氏が、朝日高根組の子ども会に行ってびっくりしたと。多分、子どもたちはお本堂に入ってどう振る舞うか迷うだろうと思ったら、入った途端に合掌することは当たり前。「南無阿弥陀仏」と口に出すのも当たり前という姿を見て、非常に感動して帰ってきたと。「正信偈」が歌われなくなったとか、念仏が少なくなったということも分かりますけど、残っている部分もあるので、きちんと向き合っていかなければならないなと思いました。

(念仏の種を蒔け・お内仏の無い家が増えつつある) ご輪番が、とにかく念仏の種を蒔けということをやられます。清見保育園は飛騨で唯一の真宗保育園で、月に2回、年少・年中・年長がお内仏の前で「正信偈」をお勤めします。先ほど孫の力は大きいとか、おじいさん、おばあさんの力は大きいとか言われていたのですが、最近、家族構成とか、世代間のつながりが希薄になり、昔だったら3世代同居で、おじいさん、おばあさんが、とにかくお内仏に参るぞと勧めた。還来寺さんのご門徒さんでしたが、お朝事を勤めないで学校へは行かせてもらえなかったとか、そのような歴史がそれぞれの家にはありましたが、今家にお内仏の無い家が増えつつあります。そういう中で、おじいさん、おばあさんが、父や母に影響されずに、孫に「お内仏と一緒に参らんか」という一声が無くなってきました。うちの保育園であった話ですが、子どもが家に帰って、おばあさんに、「なぜうちには「のの様」がないの」と言って、それで仏壇を買われたという家もありました。先ほど言われたように子どもの頃に種を蒔いておく。「正信偈」の歌を体で覚えるとか、そういうことが大事なと思います。そういう点では、先ほど言われた「子ども会」が大きなウエイトを占めるのではないかと思います。

※ 座談会内容は、3回にわたって掲載いたします。
※ 要約編集はセンター事務局で行いました。

飛騨御坊ホームページ『ひだご坊一口法話』12月

平野 素浄氏 (高山2組速入寺住職)
春國 文春氏 (高山2組玄興寺住職)



※印刷したものの郵送をご希望の方は、教務支所までご一報ください。WEB一口法話はこちら

真宗公開講座一第2・3回ご案内

第2回 12月4日(月) 14:00～ 真宗同朋会主催
「帰敬式 仏弟子になること」 相馬 豊氏 (金沢教区道因寺・修練道場長)
第3回 1月24日(水) 14:00～ 真宗同朋会主催
「水平社発祥の地に生まれて」 清原隆宣氏 (本願寺派西光寺)

飛騨御坊真宗教化センター・高山別院 2023年12月行事予定

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区・組	会場	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区・組	会場			
1	金				18	月						
2	土				19	火	14:00	教 寺院活性化支援室説明会	教務所			
3	日	13:00 14:00	別 三日の御坊 法話:小原正寛氏(専念寺副住職) 組 益田組帰敬式法座	本堂 桂林教会	20	水						
4	月	14:00	七 真宗公開講座②(講師:相馬 豊氏)	本堂	21	木	13:00 16:00	別 すす払い 教 教化研究所	本堂 研修室			
5	火	13:30	七 青少幼年会議	センター室	22	金	13:00 15:30 19:00	別 松すべき 教 高山地区財務小委員会 組 高山2組親鸞教室②	研修室 御坊会館			
6	水	13:30	教 高山地区解放推進協議会 輪読学習会②	研修室	23	土						
7	木	18:00	七 帰敬式推進室 第2回実行委員会	研修室	24	日						
8	金				25	月	15:30	組 1組末日会	研修室			
9	土				26	火						
10	日				27	水	13:00	別 親鸞聖人御逮夜	本堂			
11	月	13:00	別 大谷婦人会定例 法話:三島多聞氏(輪番)	御坊会館	28	木	7:00 13:00	別 一日華 別 親鸞聖人御命日 法話:石井 宗氏(西教寺住職)	本堂			
12	火	19:00	組 2組親鸞教室①	御坊会館	29	金		教 教務所冬期休暇(～1/5)				
13	水	7:00 13:30	別 前住上人ご命日 組 2組組会	本堂 研修室	30	土						
14	木	14:00	教 解放推進協議会常任委員会	WEB	31	日	23:00	別 万灯会				
15	金	7:00 19:00	別 半日華 組 荘白川組浄念寺親鸞教室②	浄念寺	2024年1月 ※15日ごろまでの掲載とし、定例行事は省きます。							
16	土				日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
17	日	13:00	別 納骨経	本堂	1~3			別 修正会				